

Vol.19(2021) No.06(03/25)L03

COVID-19 関連の過剰炎症症候群治療における静注トシリズマブの有効性および安全性:Covizumab-6 観察コホート研究

[Effectiveness and safety of intravenous tocilizumab to treat COVID-19-associated hyperinflammatory syndrome: Covizumab-6 observational cohort](#)

Corominas H, Castellví I, Pomar V, et al.

【Clin Immunol. 2021 Feb;223:108631】-peer reviewed(査読済み)

(要旨)

COVID-19はウイルス感染が発端となるが、患者によっては過剰な炎症反応を呈し、急性肺損傷(ALI)および急性呼吸窮迫症候群(ARDS)を発症することがある。炎症反応ではインターロイキン-6が重要な役割を果たしていることから、感染が急速に進行しているSARS-CoV-2確定患者すべてを対象に、ALIおよびARDSの予防を目的として、単一施設の観察研究を行い、トシリズマブ(TCZ)の有効性および安全性を評価した。TCZの投与を受けたCOVID-19患者104人の死亡率(5.8%)は、地域における死亡率(11%)、入院患者の死亡率(10%)と比較して低く、当病院の標準治療のみを受けた入院患者(6%)よりわずかに低かった。TCZは、急性期反応物質、フェリチン、および肝臓から放出される蛋白を急速に減少させることが示された。D-ダイマーの低下は緩やかであった。特に安全上の懸念はみられなかった。切迫した過剰炎症反応を伴うCOVID-19患者へのIL-6受容体拮抗薬の早期投与は、ICU入院およびさらなる合併症を予防する上で、安全かつ有効な治療法となる可能性がある。